

成富兵庫茂安

なりどみひょうごしげやす

武将からグラデデザイナー。民のため、時代を越えた「いい仕事」。



Naridomi Shigeyasu

- 《人物像》
- 忠義に厚い武士魂
 - 臨機応変な知略家
 - 上司からも部下からも慕われる人格者

武将から治水家へ鮮やかな転身

肥前国を治めていた龍造寺氏の家臣である成富信種の次男として生まれる。11歳で主君の龍造寺隆信の小姓として仕えるようになり、17歳で初陣。以降、幾多の戦いで武功を上げ、豊臣秀吉の朝鮮出兵では鍋島直茂から全権を任されて活躍。またその知略ぶりから多くの逸話を残し、佐賀藩士に読み継がれていた「葉隠」にも多くのエピソードが残されている。

戦国の世が終わると藩内の禄高を上げるため、幾多の水利施設の整備を行う。その実施前には実際に模型を作って緻密な実験をしたと言われる。工事には地元の農民を作業に当たらせて、農繁期には作業をさせないなど、その気遣いぶりで領民から親しまれた。

茂安が各地に作った水利システムは複雑に組み合わせられており、どこかで不具合が生じるとシステム全体に影響が出るため、それに手を掛ける事はタブーとされ、江戸期を通じて領内では水争いや百姓一揆がほとんど起こらなかったという奇跡のもととなった。

茂安自身は1634年、75歳でその生涯を閉じるが、彼の水利システムは今でも現役で佐賀平野を日本有数の穀倉地帯にならしめ、稲田を潤している。

年	年齢	出来事
1560	永禄3年 1	誕生。幼名千代法師丸、のちに新九郎と名乗る
1570	元亀元年 11	今山の陣。隆信の小姓として仕えるようになる
1576	天正4年 17	藤津郡横造城攻めに従軍し初陣を飾る
1580	天正8年 21	筑後生駒城攻め。十の武功を上げ十右衛門賢種と改名
1589	天正17年 30	天草騒動平定に加勢。加藤清正と出会う
1592	文禄元年 33	文禄の役。龍造寺家の名代、鍋島直茂のもと朝鮮に出兵
1597	慶長2年 38	慶長の役。鍋島勝茂(直茂の子)を助け朝鮮に出兵
1600	慶長5年 41	関ヶ原の戦い。鍋島軍は西軍。伏見城などを攻める
1615	元和元年 56	この頃から各所の水利工事を始める 筑後川の千栗の土居(みやき町) 脊振山の蛤水道(吉野ヶ里町) 嘉瀬川の石井樋(佐賀市大和町)…等
1634	寛永11年 75	9月18日、死去




◀この佐賀平野の恵みも茂安の幾多の水利工事の賜物。写真上中央から左下に延びる川が、佐賀城下に水を供給した多布徳川(画像提供:筑後川河川事務所)

あなたにとって成富兵庫茂安とは？

何事にも一所懸命な武人

さが水ものがたり館 初代館長
金子信二さん




佐賀では水利の神様として有名な成富兵庫茂安ですが、実は武人としても多くの武功を挙げた人なんです。戦国から平和な世の中になり、実際に水利事業の任についたのは50を過ぎた頃。時代に応じて主君のため、藩のため、今、自分のなすべき事に一所懸命に取り組んだ姿に魅かれますね。そのため多くの武将や部下からも慕われ、あの加藤清正からも一万石で誘われてましたが、「二君に仕えず」と主君への忠義を貫いた義の人でもあります。

成富兵庫を知る入門の一冊

「成富兵庫茂安 佐賀藩の初期を支えた男」

基礎史料である「成富家譜」からその生涯を、江戸後期に編纂された「疏導要書」から治水の功績を読み解き、様々なエピソードを紹介。
田中耕作 著/佐賀新聞社刊/1575円(税込)




▲「錆色塗糸威仏二枚胴具足」(さびいろぬりこいゑぶつにまいどうぐそく) 天草の戦いにおいて加藤清正に加勢した事から、清正より授けられた甲冑(鍋島報効会蔵)

▶「梨子地願文詩繪巻」(なしあぢのうみまきえあひま) 茂安愛用と伝わる馬のあぶみ(鍋島報効会蔵)

初陣はフライング(笑) 父が救った命

若い頃の茂安は血気盛ん。11歳の時に若すぎると初陣の許可が出なかったため、独断で戦場で物見を行い、それが龍造寺隆信の目に留まり、以来小姓として使えるようになる。さらに18歳の時に博打にハマり父親の初倉まで失ってしまう。いっそ殺してしまえという親族に対し、父信種は一年だけ待ってくれと茂安を徹底的に指導。その心に打たれた茂安は見事更生を果たすのだった。

成富兵庫茂安足跡探訪コース【約2時間】(移動約55分+観光散策約65分)

- モデルコース 生誕地から茂安三大事業の一つ、石井樋を経由し、墓地までその功績を辿る
- 成富兵庫茂安公誕生之地** 地図▶P34 B-3
佐賀市鍋島町増田の土手沿いに誕生400年を記念して建てられた顕彰の碑。
[佐] 佐賀市鍋島町大字鍋島1397 付近 [固] 佐賀市文化振興課 ☎0952-40-7368
 - 石井樋公園・さが水ものがたり館** 地図▶P34 B-3
石井樋は茂安考案の大型取水施設で、彼の仕事を今に見る事ができる貴重な遺構。関連の資料館も併設で、詳しく学べる。
[佐] 佐賀市大和町大字尼寺3247 [固] 9:30~17:00 [休] 月曜(祝日の場合は翌日) 12/29~1/3 [固] 無料 [固] ☎0952-62-1277
 - 築山公園** 地図▶P34 B-3
茂安公が住んでいた屋敷跡で、今日では奇せ墓や顕彰碑が建つ。実はこれらが建つ盛土部分は前方後円墳。
[佐] 佐賀市大和町大字尼寺1363 付近 [固] 佐賀市文化振興課 ☎0952-40-7368
 - 葉隠発祥之地** 地図▶P34 B-3
武士のあるべき姿を様々な事例で記した「葉隠」。その口伝と執筆が行われた「朝陽軒」があった。林の中に碑だけが立つ。
[佐] 佐賀市金立町大字金立1557 付近 [固] 佐賀市文化振興課 ☎0952-40-7368
 - 本行寺** 地図▶P35 F-8
茂安の墓は本堂の左側に。没後佐賀市大和尼寺に葬られ、本行寺には毛髪が納められている。他に鍋島直弘、江藤新平の墓も。
[佐] 佐賀市西田代1-4-6 [固] ☎0952-24-1813

戦国一の策士 普請場の陣取り合戦

大阪での普請(工事)を命じられた時の事。作業するのに欲しい場所は既に他藩が押さえられている。そこで夜中にその脇の川の中に杭を打ち込み、翌日に「3日前に杭を打って場所を確保しておいたが、水が増えて見えなくなっているようだ」とその杭を引き抜き、その場所を横取りしてしまっただとか。茂安は戦国一の曲者(くせもの)との異名さえついた。

「眠るならそばに」。養子に 来た藩主の息子に慕われる

茂安は藩主・鍋島勝茂から、その四男の直弘を養子として預けられた。これは成富家の後継ぎとしてではなく、武士として立派に育てて欲しいという思いから。藩主の子供を預けられることから、いかに茂安が信頼された人物だったかが分かる。直弘は後に鍋島家に復籍し白石鍋島家を興すが、その墓は直弘の遺言により、茂安と同じ本行寺に建てられている。父子だった期間は短いものの茂安と直弘の深い情愛が感じられる。



▶鍋島勝茂(鍋島報効会蔵) 佐賀藩の初代藩主。龍造寺隆信の後、政家、高麗の死去を受け、父の鍋島直茂が藩祖、勝茂が藩主となって、佐賀の地を治めた

▲嘉瀬川から佐賀城下へ水を取込む巨大取水施設「石井樋」その完成により、洪水被害は減り、佐賀城下の水不足は解消された(画像提供:筑後川河川事務所)



▲「疏導要書」(そうどうようしょ) 佐賀藩の南部長恒によって1834年に書かれたもので、藩内河川の水利状況や成富兵庫茂安の業績が細かく記されている。写真は石井樋の見取図 佐賀県立図書館で複写本の閲覧可能(鍋島報効会蔵 佐賀県立図書館寄託)

ものしり坊主を取り込み 攻略のたすけにする


茂安が鍋島勝茂と共に江戸城に登城した際、湯をくれただけの坊主に茂安は独断で何と絹の反物十巻を送った。その後のアプローチもあり、その坊主は勝茂らの湯茶の接待など、厚く世話をするようになる。結果、坊主から城内の様々な情報が入るようになり、何事も都合よく運ぶようになったとか。



▲茂安の数々の逸話も収録された「葉隠」の写本 佐賀県立図書館で複写本の閲覧可能(鍋島報効会蔵 佐賀県立図書館寄託)

《ちょっと足を延ばして》

蛤水道 地図▶P34 D-1
夏場の田畑の水不足を解消するため蛤岳につくられた水路で、今も往時の姿を残す。その感謝の意を伝えるため、毎年5月に「兵庫まつり」が開催されている。
[佐] 神埼郡吉野ヶ里町



▲手前右の溝は必要以上の水を仕分けるための「のこし」

はみだし情報▶ 佐賀県内には成富兵庫茂安の偉業をたたえ、佐賀市兵庫町や三養基郡北茂安町(現みやき町)など、その名前が地名になって残っている